

全国・県学習状況調査における生徒の結果分析（2年）

今年度の分析

全体の概要		
国語	全体の正答率は県平均を下回っている。領域別にみると、言語事項の漢字の読み・書きについては1年次と比べると、下回っている。また、書くこと・読むことの無回答率が県無回答率と比べ、高くなっている。自分の考えや問いに対して導き出した答えを文字で表現すること、文章を読み、内容を理解することを苦手とする生徒が多いと考えられる。	
分析結果・課題把握		改善に向けた具体的取り組み事項
話す	正答率は県平均を下回っている。音声のみで情報を得ることを苦手とする生徒が多いと考えられる。	「話す・聞く」活動を授業でも多く取り組みたい。定期テストでも聞き取りテストに取り組む。
書く	正答率は県平均を下回っている。「書くこと」に対しては無回答率が高かった。自分の考えや問いに対して導き出した答えを文字にして表現することを苦手とする生徒が多いと考えられる。	文章を書くという活動を授業でも多く取り入れ、書くことへの抵抗感を薄めていきたい。
読む	正答率は県平均を下回っている。無回答率も高く、文章を読み内容を理解することを苦手とする生徒が多いと考えられる。また、文章を読むことに抵抗を感じている生徒も多いと感じる。	授業でも文章を読むことを繰り返し行い、丁寧に読み進めていく。内容を理解する力を身につけさせるとともに文章を読むことへの抵抗をなくさせていきたい。
技理知能解識	正答率は県平均を下回っている。一年時と比べると、漢字の読み・書きも下回っている。	家庭学習である毎日の漢字の書き取りを継続して行う。また小テストも継続する。漢字の読み・書きを定着させていきたい。

今年度の分析

全体の概要		
数学	全体の正答率は、県平均とほぼ同じである。観点別にみると、見方や考え方・知識の観点は県平均とほぼ同じだが、技能の観点は、やや下回る結果となった。領域別では、図形領域では、県平均をやや上回り、資料の活用は、ほぼ同じ、数と式、関数ではやや下回る結果となった。また、1年次の同時期の調査と比較して、ほぼ同じ結果となった。1年次はチームティーチングを活用したが、2年生では一斉授業が主になるので、授業法にはさらなる工夫が必要である。	
分析結果・課題把握		改善に向けた具体的取り組み事項
知識・理解	正答率は、県平均とほぼ同じである。そのことが、図形領域で県平均を上回ることに繋がっている要因の一つである。しかし、全国平均と比較すると、大きく下回る結果となっている。	県のクロス集計をみると、「問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いている」の項目で「当てはまらない」が県平均より、やや上回っているため、机間指導および、徹底した板書指導によって、必要事項の理解を高めていきたい。
技能	正答率は、県平均をやや下回っている。また、1年次と比較すると、最も低下した観点である。	この観点は、公式や決まりを理解し、問題を重ねることで、確実に力をつけることができる場所なので、すくすくテストや問題集の課題を効果的に活用し、技能を高めていきたい。
見方・考え方	正答率は、県平均とほぼ同じである。また、1年次と比較してもほぼ同じ正答率である。しかし、全国平均と比較すると、やや下回る結果となっている。	県のクロス集計をみると、「公式や決まりを習うとき、その根拠を理解するようにしている」の項目で「当てはまらない」が県平均より、やや上回っているため、学び愛の時間を効果的に取り入れて、表現力を高めたら、見方・考え方の向上に努めたい。

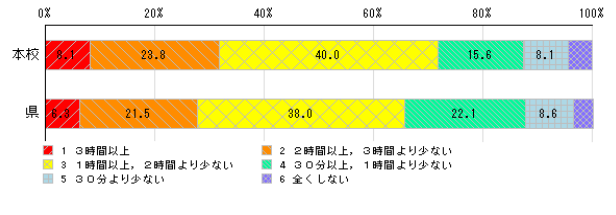
全国・県学習状況調査における生徒意識調査の結果分析（2年）

分析と改善に向けた具体的取り組み事項

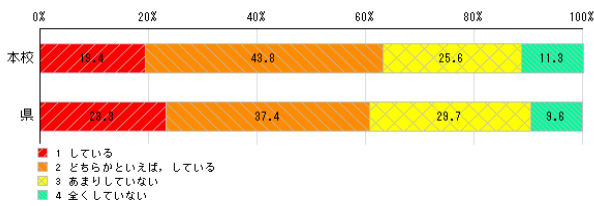
部活動の入部率が高いので、土曜日は部活動をしている生徒が多い。1日当たりの勉強時間を確保して、苦手な教科の勉強をしているが、NRTの結果を考えると、基礎・基本の定着まで到達しているとは言い難い。しかし、手伝いをするなど家庭の役割を十分把握している生徒が多いことは、良好な家庭生活を過ごしているといえよう。今後は、学習面を生徒本人や保護者と面談等を行い、改善に向けた取り組みが必要である。

【 数値が特に高かった項目 】

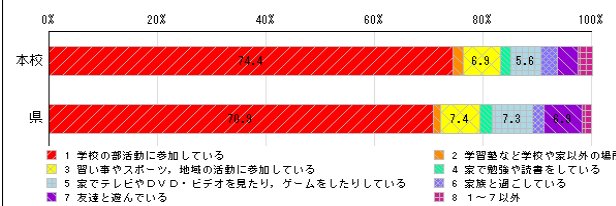
(6) 学校の授業時間以外に、音読（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらい勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。）



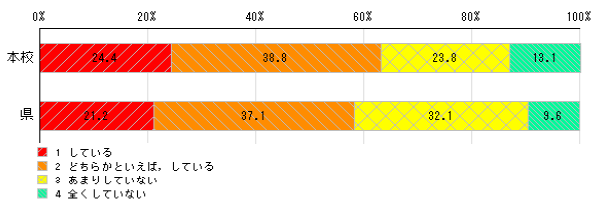
(14) 学校の授業の復習をしている。



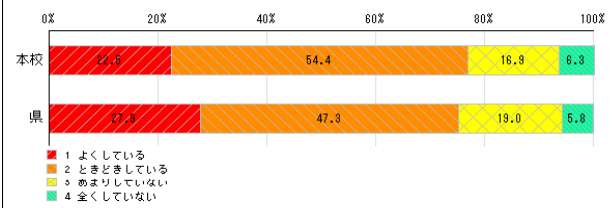
(8) 土曜日は、何をして過ごすことが多いですか。



(15) 苦手な教科の勉強をしている。



(61) 家の手伝いをしていますか。

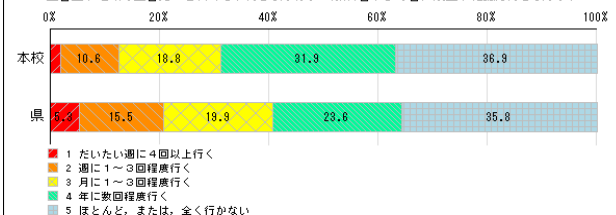


分析と改善に向けた具体的取り組み事項

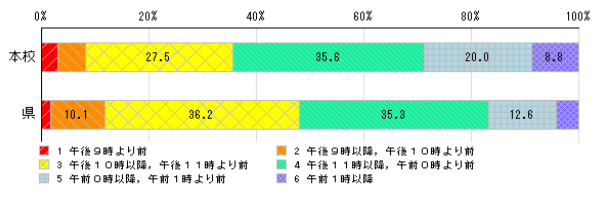
NRTの結果から考えると、塾に通ってでも学習する方が望ましいが、本人や何らかの家庭の事情などから、低い数値となっている。また、テストで間違えた問題について勉強している割合は少ない。このことから、反省し、次に生かそうという姿勢が養われていないことが推測される。よって、キャリア教育などを行い、目標を持った取り組みを支援していくことが必要と考える。読書をしたり、社会的事象を話し合うなどの割合も低いので、読書や話し合いの機会を増やす必要があるといえよう。

【 数値が特に低かった項目 】

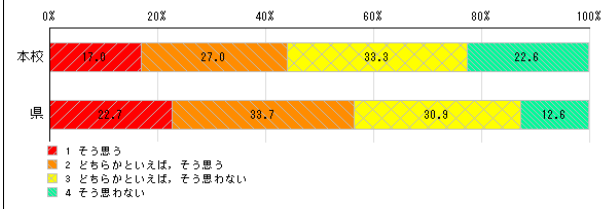
(60) 休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館へどれくらい行きますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。）



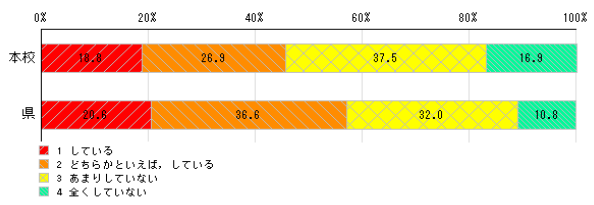
(56) 音読（月曜日から金曜日）、何時ごろに寝ますか。



(41) 社会の授業で調べたことをもとに考え、話し合いをすること（討論すること）は楽しい。



(16) テストで間違えた問題について勉強している。



(10) 学習塾（家庭教師の先生に教わっている場合も含まれます。）で勉強をしていますか。

